

6年生保護者の皆様へのお詫び

今日、6年生保護者の皆様にはLEBERでお伝えしたところですが、中学校の制服・運動着の採寸・注文案内の通知文配付を失念しておりました。大変申し訳ありませんでした。来週末に、第2回となる採寸・注文会がありますので、なんとか日程調整をしていただきますようお願いいたします。重ねて、お詫び申し上げます。



家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

学校環境の不足を補い、子どもの学びの充実につながる「地域との協働」

地域協働マルチサポートルームについて

本校では昨年度から、1階1・2年教室の東奥の教室を地域協働マルチサポートルームとし、毎週木



曜日の午前中にボランティアの方々においでいただいています。

本校にも、以下のような様々な理由から、教室や集団・友だちに馴染みにくい児童がいます。

- 同年代の友だちとのコミュニケーションが苦手
- 学習や学校生活に心が落ち着いた状態でゆったり・じっくり取り組むことが苦手
- 光や音、友だちの突発的な動きや集団のザワザワ感などを敏感に感じ取ってしまい、そうした周囲の環境がストレスに感じてしまう
- 集中して活動したり、根気強く活動に取り組んだりすることが苦手で、途中で集中力が切れて椅子に座っていられなくなったり、大きな声を出してしまったりする
- 生来の脳の働きにより、ある一定の領域や一定の学習が極端に苦手で、学習や生活が自分の思ったようにできない

近年、全国的にも増加している不登校児童生徒の一定数が、こうした理由から「教室に居づらい・学校に行けない」状況になっているのではないかと私は個人的に感じています。

本校では、こうした子どもたちが一時的であっても安心して、自分の居場所として一定時間学校に居られる・教室代わりとして居られる場所としてサポートルームを設置しました。県内・全国的な動向を見ると、中学校では専属の先生を新たに配置して体制整備が少しずつ進んでいます。しかしながら小学校では新たな教員配置が進まない状況です。

サポートルームは、静かな環境で気分転換をはかって次のステップの準備をしたり、小人数の友だちと遊んで人間関係を経験したり、ボランティアの方とお話をしながら折り紙やゲームを楽しんだり、

遅れてしまった学習を学んだり等、自分のペースで活動できる空間になればと考えて設置しました。ボランティアの皆さんも、北信学習センターが推進している学校地域協働支援本部事業のボランティア登録団体からおいでいただいています。今のところ矢野目地区の方の登録がないため、お隣の鎌田地区のボランティアさんにおいでいただいている状況です

学習支援ボランティアについて

サポートルームのボランティアの方々には、昨年度から高学年の家庭科の学習支援をお願いしています。今年も、5年生はエプロン、6年生はリュックサック・トートバッグづくりが始まりました。それぞれのクラスで授業支援をお願いしています。

ミシンは各グループに一台ずつ、一人一人が順番にミシンを使って縫製作業をします。ミシン自体の調子や糸調子が悪かったり、まっすぐ上手に縫えなかったり等々、悪戦苦闘している児童もいます。

どこかでトラブルが発生すると、先生はそこにつきっきりになってしまうので、一人一人への対応が



難しい状況が毎時間、頻発します。そんな場面に、裁縫の経験も豊かな頼もしいボランティアの方に授業支援に入っていただき、子どもたちはとても安心して製作活動に取り組むことができています。

子どもたち以上に、担当の先生もとても助かっています。小学校の先生は、図工も家庭も体育も算数も国語も、基本的にはすべての教科を担当しています。正直、得手不得手が当然あります。そうした状況でのボランティアの方々のご協力、本当に感謝、感謝です。

子どもたちも喜んで、自分の作品づくりに一生懸命取り組んでおり、今や(というか本来的にと言っても過言ではないと思いますが...) **学びの充実には地域との協働が欠かせない**と考えます。